

## 第 三 者 意 見

株式会社レスポンスアビリティ  
代表取締役  
足立直樹氏



本年度の鹿島建設のCSR報告書は、巻頭に生物多様性への取組みを特集していることが印象的でした。来年名古屋で開催される生物多様性条約の第10回締約国会議（COP10）が近づくとつれ、日本でも生物多様性という地球規模の大きな課題に取り組む企業が急速に増えています。そのような中で鹿島建設がほかの企業と一線を画しているのは、その取組みが昨今に始まったものではなく、2003年の段階で既に生物多様性の保全を環境マネジメントの重点課題のひとつと位置付け、さらに2005年には建設業としていち早く生物多様性保全に配慮した全社的な行動方針を定め、以後、現在に至るまで、日々の事業の中で生物多様性に配慮すると同時に、新しい技術や応用のための研究をも積極的に進めているところにあります。また、国内外のイニシアティブにも積極的に参加し、まさにこの分野におけるリーダーであると言えるでしょう。

生物多様性の保全に企業が果たす役割への期待は、今後、国内外にますます大きくなりそうです。例えば、建設工事の生態系への影響をオフセットすることや、建設資材を調達する際に生物多様性に配慮することなども、今後は現実の課題となっていくことでしょう。建設業という、生態系と直接接点を持ち、その影響も大きな産業を、鹿島建設がリードしていくことを強く期待しています。

昨年の第三者意見では、低炭素社会を作るための鹿島建設としての具体的な解決案の提示をお願いしましたが、今年の報告書では、施工においては「2020年にCO<sub>2</sub>排出量の1990年度比50%

減」という高い目標が明示されています。また、建物では運用時のCO<sub>2</sub>排出量が大いことから、「2011年度に建物のライフサイクルでのCO<sub>2</sub>排出量の1990年度比30%削減」を掲げ、2008年度には既に平均省エネルギー率30%を達成するなど、それに合わせた実績を着実に重ねています。こうした点で着実に業界をリードする姿勢と行動力を、高く評価したいと思います。

以上のような環境面での取組みに加え、働きやすい職場づくりや協力会社との協働の推進は、すべて持続可能な社会とそれを支える企業のあり方につながるものです。しかし、それをより確実にするためには、これまで以上に積極的な提言とそれを可能にする技術をもとに良質の建築物を作り維持するということが必要です。そのためには、これまでの考え方や方法を延長するだけでは不十分かもしれません。「100年をつくる会社」であるためには、200年先を見通すことが必要です。200年先の持続可能性を常に考えながら、施主を含む社会全体に対して積極的な提案をする、真の先進的な企業でありつづけてほしいと思います。

また、もうひとつの願いとしては、鹿島建設の高い技術力と提案力を、これまで以上に海外でも活かしていただきたいということです。日本だけでなく世界中の国と地域が持続可能でなければ、地球の将来は不確実なものとなってしまいます。鹿島建設の総合力が、国内だけでなく、海外でもさらに発揮されることを願っています。

## 第 三 者 意 見 を 受 け て 広報室長 岩本豊

貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

本年度から始まった環境の新中期目標は2020年を見越して作っており、昨年の報告書で2050年を見据えて鹿島の目指すところを示すことを課題にいただきましたが、それがかたちになってきていると思います。この計画が着実に実績に変わっていくよう各部門で努力してまいります。

鹿島のCSRは、持続性を求めた「100年をつくる」という使命感と自負を

社員一人ひとりが日々の業務の中で実践していくものであると考えております。それらの積重ねこそが弊社のCSRの果実となるよう社内でのさらなる展開を進めていく所存です。

また、各方面のステークホルダーの皆様が弊社の取組みを知っていただけるよう、今後も的確な情報発信を続け、CSR活動を推進してまいります。

### 2009年度編集方針

「鹿島グループのCSRの枠組み」の項目ごとに構成しました。2008年度のアンケートでご指摘が多かった「環境マネジメント」・「マテリアルフロー」について、特にわかりやすさを追求し、全般的に読みやすい報告書を目指しました。

### 報告対象期間

2008年度（2008年4月1日～2009年3月31日）当該年度以外の内容も一部に掲載しています。

### 報告書対象組織

原則として鹿島建設株式会社単体の国内外全部門を対象としています。ただし、

- (1) 定量的データは鹿島建設株式会社単体の国内のみを集計しています。
- (2) グループ会社の取組みについては、注記のうえ紹介しています。

### 参考としたガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン」2007年版

### インターネットによる情報提供

鹿島ホームページ  
<http://www.kajima.co.jp/>

### CSRの取組み

<http://www.kajima.co.jp/csr/index-j.html>

### CSR報告書

<http://www.kajima.co.jp/csr/report/index-j.html>